

林大だより



第 75 号 平成 30 年 3 月 20 日

長野県林業大学校翌協会



第38回 卒 業 式

翌松会 会長 奥野 孝



これからの新しい生活に
一つだけアドバイスを。「アレ?!」と思ったり気付いた気持ち
を大切にして下さい。何気ないふとした気持ちの動き
かもしれませんが大さな心の引
っかかりです。例えばパソコン
データや資料を読んでいる時
に感じた違和感…。ひよっと
すると大きなミスの発見かも
しれません。はたまた新しい
事柄や方法の大発見かもしれ
ないのです。その感じた気持
ちを、「まあいい

う？何でもないならそれで良い。リスクの一端であったならトラブルを未然に防ぐことも出来るかもしれません。またそれらは仕事や作業全般のどの場面でも起きうることです。そして、「アレ?！」が段々と増えていけば、皆さんの成長している証しなのではないかと私は思います。どうぞ、新生活は不安で一杯、緊張も一杯になると思います。が、まずは毎日一歩ずつあせらずに進んで下さい。

保護者の皆様もご卒業おめでとうございます。多くの保護者の方々が、これで子育てが一段落なのではないでしょうか。我が子がこの世に生まれて、泣いた笑ったと右往左往の時。学校へ通い始めた時。定番の反抗期。そして自分の目標を定めて進み始めた時……。どうぞ今は様々な思い出と子育ての労をねぎらってしみじみしていただきたいと思います。

最後になりましたが、林太の多くの先生方、そして関係する皆様方、二年間お世話になりました。心より感謝いたします。



長野県林業大学校 校長 山口 勝也

校長の机は三十七期生が、昨年の木材加工学実習で作ってくれた、武骨だけれど温か味のある代物。その机上の一角に鎮座している湯呑み茶碗は、初任地の初出勤日の昼休みに、職場のすぐ近くの陶器屋さんで購入してきたものだ。以来、三十八年間、職場での水分補給のためのなくてはならないツールとして、十三か所の職場を共に歩んできた。

学生達に冬休みの宿題を出した。この茶碗を少し意識し

たお題は「漆器と陶器、地球環境に優しいのはどっち？」で、理由・根拠も含めて自分の意見を記述せよというものだ。結果は漆器とした者が二十九人、陶器が九人、どちらも優しくないが一人だった。理由として挙げられたのは原材料の違いや加工時のエネルギー消費量の差、耐久性、リサイクルの可能性、製造時の周辺への影響など多岐にわたった。長く使い続ければ双方とも環境に優しいとした意見もあった。漆器か陶器か明確に結論を得ることは難しいが、自分なりに考え、答えを出すことが重要で、さらに林業に関わる者としては環境に関心を持ってもらいたい。



本年度から、学生一人一人が自分の課題を持って、学習・研究に取り組んでいる。自分なりに課題を見つけ、探究方法も考え、実践し、調査し、聞き取りなどとして年度末に発表会を開催した。この課題も多岐にわたった。独自の安全作業マニュアルの作成、野外活動の教育的効果、馬搬の可能性、木質バイオマスの活用、森林の観光的な利用、森林税について、林大中庭の再整備、外国人観光客の漆器への嗜好性……。こうした取組も、やはり自ら考え、結論を導き出していくという活動の過程が重要だと考えている。

新学習指導要領で取り上げられている「探究的な学習」、これは正解のない課題について考え、議論し、自分なりの答えを見出していく学習を繰り返して、先行き不透明な現代社会を生き抜いていく力を身に付けさせようとするものとのことだ。

本校学生の明るい挨拶は定評のあるところだが、加えて考える力、生き抜いていく力を備えることも、「全人教育」につながるものに違いない。

森林の恵みを活かして

元信州大学講師 中堀 謙二



地球が誕生して四十六億年。生命が現れ、進化し、長い年月を経て、登場した人間は七十億人を越えた。その食料や木材需要のため、伐採と耕地化は熱帯林に及び、その急速な減少が地球規模の異常気象の一因と指摘されている。狭くなる地球の資源利用と保全は二十一世紀の重い課題である。

日本はアジア大陸の東に位置し、ヒマラヤ山脈以東に発達するモンスーン気候下にある。夏に雨が降り、植物が旺盛に育ち、森林が発達する。森林伐採後の植生回復力が強いのが特徴。これと対照的にヒマラヤ山脈以西の地中海気候地域は、夏の雨が乏しく、植生が脆弱で、植生破壊からの回復力が弱い。このため地中海地域の古代文明は森

林資源を利用して繁栄したが、数百年で森林資源が枯渇すると、文明も衰退した。地中海地域で文明がメソポタミア・クレタ・ミケーネ・ギリシャ・ローマへと放浪した背景には、回復力の弱い自然と森林資源の枯渇があった。

日本の歴史を振り返ると、鎖国下の江戸時代、自給する食料・燃料・肥料・建築材料等の中で、食料確保は最優先課題であり、農業生産に力を注ぎ、肥料生産のため草山が温帯最上部にまで広がった。しかし、明治以降は海外からの食料・肥料等が増え、利用の減った草山への植林が進んだ。戦後は化石燃料が普及し薪炭林や柴山の針葉樹林への転換が進んだ。歴史的にみると短期間で日本の山は再び森林で覆われた。

強い日本の自然、成長する森林を活用し木材自給率を向上させること、そして再生力の弱い熱帯林や北方林への依存を減らすことは、地球環境保全への貢献でもある。

長野県に育つ樹々と森林の恵みは奥知れず、知らぬこと気付かぬことだらけである。気候は北部が多雪、中部は寡雨、南部の夏多雨と異なり、それに対応し植生・植林木・文化が展開している。現場に

林大生に期待する

飯伊森林組合 代表理事 林 和弘



飯伊森林組合は、人材確保の必要性から林大生の皆さんに期待しています。森林組合にとって現状は、社会的に大変厳しいものがありますが、信頼回復に向けて社会貢献力を高めて努力しているところ

です。この社会貢献とは、地域の森林管理と林業再生に向けた活動にあります。組合員の森林を中心に、組合員自ら管理・経営ができなくなりつつある現状から、これを森林組合が代行して管理・経営する

出ると発見があり、未知の世界を経験し、新知見を得る。その感動や知識、樹木や森林への思いを地域の人々と共有し、豊かな人生を送りたいと卒業生とともに願っている。

方策を講じて、所有林を存続できるようにしたいと考えています。この管理・経営を責任をもって行うことにより、地域の森林が健全に維持され、森林の持つ公益性を確保したいと思っています。

この度当組合は、森林管理の技術向上を目指して森林認証を取得しました。この認証制度は、適切な森林管理と持続可能な森林経営が行われている森林が認証されます。今後このような森林管理の水準を地域全体に広めていくことにより、世界標準として普及している認証森林の管理・経営をアピールしていきたいと思っています。また、生産された木材については、木材流通・加工の認証も取得しています

ので、林業再生を目指し地産地消の木材利用にむけ『南信州の木』の普及により、地域の木材利用文化を創造していきたいと思っています。

飯伊森林組合の取組み状況を示しましたが、林大生に期待することは、森林管理と林業の知識と技術に加えて、森林の重要な存在意義としての環境機能の発揮についても是非知識と技術を修得していただきたいと思っています。山村地域の環境保全に貢献すること、さらには地球環境の保全に資する森林の品質管理を実践すること。若い皆様に期待するものです。

学生時代は楽しいものです。同時にその場で培った感性は将来大きな糧となるものと思います。今チャレンジできることの喜びを感じて、林大生として成長してください。

当組合は、元気で活発な皆さんの活躍の場をもっていきます。山村の守り手として、かつ森林管理と林業再生の担い手として活躍を期待いたします。

学生の
ページあす
なる
の
眩

つぶやき

学 校 ・ 寮 生 活 か ら

これから
林大生に向けて1 学年
石澤かやき

私は県外の、しかも普通科という全くもって森林と関わりのないところから来ました。ですからみんなの知識についていけるのか、話が合う人はいるのか、また外から来た自分を受け入れてくれるのかとても心配でした。しかしそれは取り越し苦労で、全く必要が無いことが入学してみても分かりました。学業では林業についての知識を基礎から教えてくださるためとても分かりやすい

ですし、林業の知識のほかに一般教養科目も多く、高校までで習ったことの復習のようなものあれば、全く新しいことも学べたりしてとても面白いです。また先輩方も緊張している一年生達を気遣ってくださり、部屋ごとに食事に行ったり、みんなでゲームをしたりスポーツをして遊ぶなど親切に接してくれます。これらのことから何が言いた

いのかというと、おそらくほとんどの人にとって寮生活は初めてのことでよく分からず不安であると思いますがそんなに考える必要はありません。林大での生活では楽しいことが沢山ありますので、気楽に接してきてください。



10月 1 学年 測量学実習

自分の進路について

1 学年
越 信雄

私は高校生の頃、造園技術コースを専攻していたが、庭ではなくもっとスケールの大きい森林で仕事したいと思い、登山部だったことから自然に興味を持っていたこともあり、一旦東京の専門学校で森林や自然環境の勉強をし、そして林業大学校に入学した。私は林業をしたいという強い気持ちで、森林組合や林業会社の現場作業員などを進路に決めていたが、たびたび起こる熱中症や低血糖などによるダウンで、現場作業はやめたほうが良いと苦渋の判

断をし、他の仕事を経験してみようと思元ノキノ工場にインターン・シップをさせて頂き、とてもよい経験となった。

私は今現在進路が決まっていないので、今後はインターン・シップを重ね、様々な仕事を経験し、決めていこうと思う。

林大に入学して

1 学年
高山 亮介

私が長野県林業大学校に入学したのは去年のことでした。当時の私は、期待もありましたが不安の方が大きかったです。寮生活にはしつかりとなじめるだろうか。私は寮生活というものをほとんど知



11月 1 学年 治山工学現地研修

らず、知っていることといえば、テレビで取り上げられているような厳しい学校・寮生活だけでした。林大の寮に入寮する前は、不安だらけでした。しかし、実際に自分の目で見たことにより、不安だった寮生活や先輩方のイメージが大きく変わりました。先輩方はみんな優しく、入寮日には私が寮に行くときに事前に名前を聞かれ、もって来た荷物を部屋まで運んでくれました。これを見た私は、感謝とともに、とても驚きました。

林大に入学してから強く



12月 1学年 自主研究発表会

まず、一番不安だったのは寮生活です。はじめて変わった環境で生活するということでも何もかもわかりませんでした。そのときに助けてもらったのは『先輩』という存在です。入学したての何もわからない私たちに嫌な顔せず優しく教えてくれました。

そのときに私はとても安心しました。不安や緊張も徐々に減り入学して一年が経とうとしている今では、寮生活をできて良かったと思っています。他にも一般教科での新しい知識の習得やチェーンソーや刈り払い機などの実習で自分が将来就職するにあたって絶対に役に立つことが沢山あり、毎日が充実しています。四月になれば私たちも先輩になります。私たちと同じ思いをして入学してくる一年生を助け、自分が先輩にできるようになったことを先輩にできるようにこれから生活していきたいです。

思っていることがあります。それは、両親の偉大さです。私が今している土日の自炊や洗濯などを毎日、私のために十八年間ずっとやってくれたからです。まずは両親への感謝、そして私を大きく成長させてくれた学校、寮生活、先生方、先輩方にも感謝の気持ちでいっぱいです。残りの林大生活を大切に使い、たくさんの方にチャレンジしていきます。



1学年 藤原 涼太

入学して
もうすぐ一年



1月 1学年 中部森林管理局技術交流発表会

林大に入学してから半年以上になります。早いようで長い半年という期間の中で、私たち一年生は多くのことを学びました。私たち三十九期生は県外出身の者、普通科高校に通っていた者が多く、林業自体の知識・経験が未熟でした。私もその一人です。四月に行われた屋久島研修では晴天の前半日以上山中を歩き縄文スギをこの目で見ることでできました。ここでは屋久島の自然の豊かさや土地の環境作用などを体で感じました。五月ごろに行われたウッドフェア



1月 1学年 造林学



1学年 横井 翔

学ぶべきこと

では様々なブースで林業の研究課題、目標にはどのようなものがあるかを具体的に知りました。また、世界伐木選手権の日本代表選手に実際に目の前で伐倒していただき、高度なチェーンソー技術を学びました。そんなこんなで、毎月のように行事がある林大はとても充実しています。寮生活では、他人とのコミュニケーションをとる必要性・集団社会での礼儀（あいさつなど）が重要になってきます。まだまだ知識・技術ともに未熟な私ですが、少しでも早く先輩方に追いつけるよう、日々精進していきたいと思っています。

林大だより

2学年
奥野 真基

林大生活最後の冬を迎えた今、入学式で聞いた「二年間はあっという間に過ぎていく」という言葉を今更ながら実感するようになりました。

林大での二年間を振り返ってみると大変なこともありましたが、思い出してみると楽しかった思い出のほうが圧倒的に多く、よい林大生活を送ることが出来たと感じます。四月からは社会人として働いていくことになるので、林大で学んだ規律節制や礼儀を重んじる心を大切に社会に出て行きたいと思います。二年間ありがとうございました。



10月 2学年 架線学実習

最後に

2学年
神戸 星竜

林大での生活も残す所一ヶ月と少しになりました。普通科高校だった自分は、山に関わる仕事をしたいという単純な気持ちだけで、林業というものをほとんど知らない状態で入学しました。林大の講師の方、外部講師の方々に基礎から林業を教えて頂き、知識も多少は身についたと思います。実習ではチェンソーのいろはから始まり、実際に立木を伐倒するまで、どれもこれも今まで自分の人生からはとても考えられない体験ばかりで、毎日が刺激的でした。



11月 2学年 樹木医学実習

は寮生活に不安がありました。が、時には本気で怒ったり、話し合ったり、毎日を過ごしていく中で、かけがえのない存在になりました。

中学・高校と学校の教師には嫌われ続けてきましたが、林大の先生方は違い、こんな自分の事を気にかけて頂きました。

そして学校に行かせてくれた両親にも頭が上がりません。二年間で勉強以外の大切な事も沢山学べました。

周りの人、環境には感謝し切れない程の感謝がありました。卒業後もこの感謝を忘れずに、生きていきたいと思えます。

林大生活を

振り返って

2学年
須田 勇輝

今回、私は、林大生活二年間を振り返ってみての感想を話したいと思います。自分は高校が普通科で、林業の知識がほとんどなく、林業の知識を修めて来た人たちについていけるかなど、正直この林業大学で上手くやっていけるか不安でいっぱいでした。しかし、授業を通して林業を学ぶにつれて林業の知識が深まり、また、実習等を通して林業の技術等を経験するなど林業について多くのことを学ぶにつれて、入学当初は分からなかった林業の専門的な部分も次第に分かるようになってきました。林業の知識が乏しかった私がこの二年間で林業の専門的なことを学び、技術面等も向上するなど自分にとって、とても有意義な時間となりました。私が林業の知識を深めることが出来たのは、私一人の力ではありません。私

二年間の林大生活を 振り返って



2学年
中嶋 真之

二年前の四月、同室の先輩方との初の顔合わせの際に、人見知りの性格もあり、同学

と同じクラスの仲間たちとともに互いに切磋琢磨しあい、お互いがいいライバルだったからこそこれだけ林業への理解を深めることが出来たのです。卒業まで残りわずかですが、卒業後もそれぞれ職場は違いますが、互いに切磋琢磨しあい、個々の技術を伸ばし、林大で培った知識を糧に今まで以上にレベルアップしていきたいです。



12月 2学年 木材建築構造概論

年の森上君も先輩だと信じ込んでいたことから始まった寮生活も半年と経たず四人一部屋の状況にも慣れ、先輩に叱られながらも寮生活を楽しく過ごす事ができたのは周りの人に恵まれたからだと思える。

そんな一年も過ぎるのはほんとに一瞬のようだった。楽しく騒いだり叱られたりをくり返し、一つ一つの行事が終わるたびに先輩方との別れが近づき、卒業式を迎え、自分はボロクソに泣いた。卒業式

の記憶が泣いた事しか無いくらいに。

そして去年の四月、二年生になり、後輩ができた。最初は挨拶が無かったり電気を消さないなど問題も多かったが、その前の年の自分達も先輩から見たらこんな感じだったのだろうかと思うと強くも言えず、一年からしたら一番先輩らしくない先輩だと思う。しかし、後輩達とも友達のように馴れ合えたのは嬉しいし楽しかった。

それも残りわずかとなった今、一番に思うことは同期の存在だ。二十人全員が寮にいて、バカ騒ぎもできて遊びにも行けて。時には話を聞いてもらったり、本気で怒らせてしまったり：思い返せば返すほど皆との思い出が一番残っている。

三十八期生とその思い出が全てであり、林大での二年間が生涯の宝物だ。

平澤先生をはじめ、先生方にも数多くのご迷惑をおかけしました。本当にすみませんでした。



林大ありがとう



2学年
森上 慶士

林大に入学してはや二年が経とうとしています。入学当時は、地元兵庫から飛び出して木曾で過ごすと考えると正直不安でしたが、温かく迎えてくださった先輩方や同級の

仲間たちに恵まれ、その不安もいつの間にか消え林大生活を楽しんでいる自分がいました。

朝から夜まで仲間と一緒に勉強したり、美味しい寮食を食べたり、ふざけあったり、楽しい生活をすることもなくなるのか考えると寂しく思います。小中高、どの時間よりも林大での時間は自分が十九年生きてきた中で最も早く感じました。こんなにも充実した生活ができたのは、自分を支えてくれた家族、先輩や後輩、林大の先生方、そして二年間林大生活を共に過ごしてきた三十八期の仲間のおかげだと感じています。林大で幸せな二年間をみんなと過ごすことができてよかった。林大ありがとう、最高です!!

社会人になってこの林大で過ごした時間を忘れることなく、この二年間を糧に頑張っていきます。



1月 2学年 保健休養学

保護者の
ページ絵
の
一
言

かけがえのない

経験

大畑 里美



自然豊かなこの木曽で育ち、小さな頃から山や川、動物や子供が大好き

な娘が、林業に興味をもち林業大学校に入学して早いもので一年が過ぎようとしています。

入学前には少し不安もありましたが、やはり同じ林業に関心をもつ仲間達の集まりだからこそ、慣れる事は早かったように思います。

林業大学校での学習は、技術養成



11月 ハスクバーナ特別講座

教育も充実しており、その一つとして毎年伐木選手権大会が開催されています。大会が近づく早朝に先輩が練習するチェンソーの音で目が覚める幸福感は、なんとも言えない心地良さだと、笑顔で話す娘の様子は忘れません。

二年間の経験は、必ず生涯かけがえのないものになるはず。残り一年、林業を支える人材の一人となるよう頑張っているようです。

思いのままに

島崎 由美子



北八ヶ岳のすそ野、日本一の白樺林をもつ八千穂高原の入口にあたる地に生まれ、子どもの頃から自然に親しんで育ってきた息子が、縁あって木曽の林大にお世話になってから一年になるうとしています。

高校で進学を考え始めた時、木曽に林大という学校があると知り、こちらへ進学すると決めるのに時間はかかりませんでした。何か心惹かれるものがあったのだと思います。

家を出ることも、寮生活をすることも、林業の勉強をすることも、すべてが初めての経験で、期待と不安の中、日々を送ってきたことと思いますが、月日を追うごとに心も体もどんどん成長しているのが感じられます。

これからの一年間は、まだまだ勉強することはもちろん、自分の将来について考える機会が多くなると思います。自分が自分を信じ、自分の思うままに進んでいって欲しいと願っています。

長谷川 勝也



息子から長野林大のオープンキャンパスに行きたいので一緒に行って下さいと言われてたのが高校二年生の時。二人で行く林大は札幌から遠く、その道のりは大変でした。しかし初めて訪れた林大は魅力に溢れ、林大を見る息子の目が輝いていたのを覚えています。三年生の時、もう一度林大のオープンキャンパスに行きたいと言うので家族全員で行きました。妻も林大を気に入って、息子もまた本気で林大への受験を決意しました。小



1月 1・2学年 合同体育

さい頃から自然に関わる仕事をしたいの思いが、やがて林業に関わる仕事をしたいとの夢に変わり、その夢の実現に向かって一生懸命苦手な小論文の勉強をしている姿は本当に頼もしかったです。林大に入学してからは素晴らしい先生、良き友、頼もしい先輩と出会い、充実した学校生活を送っているようです。親として、その姿を見ていると本当に人間的に成長したと感じております。全人教育のもので今後も人間的に成長していくことを期待しています。



2月 中島副知事との意見交換会

帰路、木曽福島宿を通ると、多くの店舗の目立つ所に、木望祭ポスターが貼られていました。林大には、沢山の応援サポーターがいるんだと、温かい気持ちで木曽を後にしました。

「自然の中でする仕事に就きたい」と、進路を考える中で、林大に巡り合いました。周囲に林業関係者が皆無の



木望祭に参加して

山崎 正隆

中、運命的な出会いだったと思います。その後、幸運にも林大に入学許可され、あつという間に一年が経とうとしています。

寮から帰宅する度に息子の表情から、林大で充実した日々を過ごしていることが、手に取るように判ります。寮の仲間、先生方、そして地域の方々の支えに感謝し尽くせません。

さて、十月の木望祭に伺いました。個性豊かな林大生の（真の？）姿の展示から、寮

生活の楽しい雰囲気やヒシヒシと伝わります。伐木デモでは、その林大生の表情、雰囲気も一転。真剣な表情で伐木方向を確認、大音響と共に伐木。林大生の真摯な姿に感激しました。

林大に感謝

伊藤 篤



息子と進路の相談をした事が、ついこの間だったと感じます。早いもので入学してから、あつという間に二年が経とうとしています。学校で

たくさんさんの経験を積んだのではないのでしょうか。慣れない寮生活、屋久島、オーストリア研修など、家では、なかなか学校の事を話してくれませんが、この貴重な体験を是非今後の人生に生かして欲しいと感じています。昨年の秋の木望祭を見学させて頂きました。

私も生まれ育ちは木曽なのですが、実際の林大での学生生活を少し感じる事が出来ました。学生たちの作った豚汁、ピザ、チーズを大変美味しく頂きました。自然の中で学習している学生諸君をうらやましくも感じました。これから皆、新たな道を進むわけ

ですが、林大で勉強した事、経験した事を忘れずに、林大の卒業生はキラリと光るものがあると感じて貰えるよう、感謝の気持ちを持って歩んで行って欲しいと願っています。学校の先生方にも大変お世話になり、本当にありがとうございました。

皆様へ感謝、感謝

熊谷 朗



時の経つのは早いものでこの文集依頼が届いた時、「もう今年卒業の年か」と思う今日この頃です。親の思う通りにならず進学と聞いた時には、貧乏で勉強嫌いで就職した私とは違う道を歩む姿を見て、頼もしい様な心配の様な



2月 雪灯りの散歩路（木曽町）

気がしたものです。

入寮の時先輩方が率先して手伝ってくださった所を見て、ここなら安心して預けられると思ったものでした。私自身も他県へ就職した時六畳一間で二段ベッドの四人暮らしをした経験があり良い人生経験をしました。息子も二年間変化に富んだ経験を積んだことでしょう。

息子は私と同じように部屋にこもって何か決まったことをすることが苦手なのか？わかりませんが、親の予想を超えて林業を選ぶとは驚きでした。

学生生活では、屋久島研

修、オーストリア研修、寮祭他、地元の人々との「宗助、幸助」のみこしまくり、駅伝大会、雪灯りの散歩路、アルバイトなどのふれあいを通して貴重な体験を積んで、成長する姿を時々自宅へ来た時に見ることができ、頼もしく思っています。今後就職して新しい人生を歩んでいくわけですが、自分一人でここまで来たのではなく、熱心に指導してくださった先生方、温かく見守ってくださった寮の方、気さくにお付き合いいただいた木曽町の方々、そして人生の宝でもある同期生のことを忘れず、プロフェッショナルへの道を、目的を持っていつもポジティブに楽しく突き進んでもらいたいものです。

感謝、感謝！

有難うございました 下村 勇三

ついこの間入学式が終わったと思っていたら、あっという間に二年が経とうとしています。当初は何もできない子供だと思って心配していたの



10月 木曽祭（寮祭）

ですが、学業や寮生活でしっかりと鍛えていただき無事に就職も決まり卒業できそうというところまで来れました。ここでの二年間は娘にとって確実に一生忘れない物でしょうし宝となったはずで。これから社会に出た時、必ず役に立つ知識と経験が身についているはずで。それは本人の努力だけではなく、先生方や生徒さん達、皆様のおかげです。全ての事柄に感謝しながらこれから社会で自分なりの活躍をしていくことがこの二年間への恩返しになると思います。

卒業まであとわずかですが、林業大学の皆様に感謝申し上げます。有難うございました。

木曽に感謝

辻 香織



いつか息子が木曽に住み、林業を学ぶなどと思わず、登山やキャンプが好きな私達夫婦が、まだよちよち歩きの息子を連れて千葉県から赤沢自然休養林を訪ねたのが二十年前でした。

不思議な御縁で林大に受け入れていただき温かい方々に恵まれて充実した二年間を過ごせたことに深く感謝致します。私達も折に触れ木曽を訪れ、大好きな場所になりました。今春、希望通り長野県内で林業の仕事に就くことが出来ました。これからまた見知らぬ土地、豪雪地帯で独りでの生活が始まります。林大で得た多くの知識と出会った方々を胸に様々なことを乗り越えてほしいと思います。最後になりますが、先生方、寮でお世話になった皆様、同級

生の方々、本当にありがとうございました。

林大生活に感謝

松田 成雄



息子が林大にお世話になり、あつという間に二年が経とうとしています。

当初、林大に進むと聞いた時は「なぜ林大なのか？」と不思議に思ったものでした。三人兄弟の三男坊でいつも兄の後をついてまわり、祖母にもかわいがられた末っ子の息子がいつのまにか自分で考え決めた進路でしたが、親としては頼もしく感じる反面、全寮制での学校生活は先輩方やクラスメイト達とうまくやっていけるのかが一番の

心配でもありました。

息子も当初は（林大だよりを読んで判明しましたが）人見知りで苦労をしたようですが、帰省のたびに成長した姿を見せてくれ（麻雀の腕もなぜか上げていたようですが）、親戚や祖父母とのやりとりや言葉使いなど林大の数々の経験がとても役立っていると感じております。卒業後の進路も決まりましたが、まだまだ林業では、ひよっこで修行の日々が続く事でしょう。晃治、頑張れよ!!



11月 3林大交流伐木選手権大会

先人達からの挑戦状（君達や如何せん。）



第7期卒業生
堀内 栄作

今見る禿頭の強者、これかつて紅顔の美少年。意気揚々として林業大学の門を叩いた日から早や三十二年が

日々発見



教授
平澤 直子

私が林大に来てから早三年。この三年間で多くのものを、林大生の皆さんと林大から貰いました。
では、私は三十八期生をはじめ林大生の皆さんに、少しでも何か伝えられたでしょうか？最後の機会に伝えておき

過ぎ、社会人としてそれなりの責任を受け持つ立場となりました。

学生時代は多分に漏れず、学業に必死になれずに、ただ年月が過ぎてしまい、何も学べないで終わってしまうありさま。顧みて、「あの時、真面目に勉強しとけば、今、苦労しなくても、…」の繰り返しです。

先頃、主伐期を睨んだ事業計画を策定する機会に恵ま

檜のアドバイス

たいことが二つあります。一つは、毎日の生活の中からちよつとした気づきでいい、何か発見してほしい、ということです。

造林学の授業で月に一度、樹木の変化や林大の周辺で気がついたことを記録する、という課題をやってきました。正直面倒だなあ、と思った人も多かったと思います。ですが、そこには少しでも発見がありませんでしたか？
季節ごとの山々の変化、城山で見つけた変なもの、木々の芽吹き、目を引く花や小さ

れ、過去に遡って森林管理を評価してみると、人が立ち入る機会の少ない奥山は見るも無残、人里に近い森林は過保護な森林となっていました。

こんな実情を果たして先輩方は、どう思うのであろうか、考えつつ何時ものとおりに、昼休みの散歩で立ち寄った「県有林の記」碑の前、そこには「成果をはるか二百年後の後輩達の勤勉努力に託す。」と。これは先輩方が、

現代の私達に残していった「挑戦状」ではないかと思われました。

また、こうも書いてあります。「疎かにすれば森林は一日と荒廃し、やがては、地域住民の生活に災いを及ぼすであろう。」と。

兎角、「森林整備」は他人事になりがちで、林業技術者である私達が、確固たる意志を持って森林と向き合わない限り、先輩方が託した理想は実現しないことに気付かされました。

私が林大生に託す願いは、時代におもねる事無く、等身大の自分で森林を在りのままに感じてもらいたい、先輩方からの挑戦状への答えはそこにあると信じています。「技術者は現場百回。」と新人の頃、よく先輩に言われました。今も私が心掛けています。とは、現地に掛け「見て、触れて、感じる。」ことです。林大生諸君にも、そのことを励行していただき、飛躍されることを祈念しております。 敬具

勤の行き帰りや、仕事にひと段落してやれやれと思っている時に、辺りを見回してみてください。もう一つは、学ぶこともいつか発見や気づきに繋がる、ということですよ。

よ！」と思っていました。林大では必ず使いますよね？）学校の勉強だけでなく、ぜひ色々学んでください。思いがけない発見があるかもしれませんよ。

授業だから仕方ないけど興味ないからおもしろくない。でも、もしかしたら、何年後何十年後に「あ！あの時習ったことはこれだったのか!!」と気がつくことがあるかもしれません。その時のキラッとした瞬間も発見だと思います。（私も数学の授業で「三角関数なんてワケわかんない！こんなの絶対使わない

さて、昨年五月のウッドフェアで、皆さんから十年後の自分に宛てた手紙をお預かりしましたね。十年後の皆さんは、きっと今の皆さんと違うはずですよ。色々学び、発見し、バージョンアップした皆さんにお会いするのを楽しみにしています。私もそんな皆さんに負けないよう、これからも日々発見し続けたいと思います。

創立40周年記念事業に向けて

長野県林業大学校は、平成30年度に創立40周年を迎えます。本校は、長野県林業の発展のため、指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者の育成を目的として、昭和54年4月に開校しました。全国の中でも最も早く開校した林業大学校の一つで、近年、全国的に林業の専門教育を担う専門学校などの教育機関の設立が進む中、常にその先頭に立って実績を重ねてまいりました。

その節目の年にあたる今年は、創立40周年を祝う記念式典をはじめとするイベントや今後の本校の発展につながる取組を創立40周年記念事業として実施する予定です。その内容は、これから細部を検討していくものもありますが、6月9日(土)に記念式典を執り行うのをはじめ、8月4日(土)には記念イベントを開催するとともに、翌5日(日)には全国の林業短期大学校の関係者が集まり、交流を深めます。ほかにも、本校の学生が全日本伐木チャンピオンシップに挑戦し世界大会への出場を目指したり、学生による公開講座を開催するなど、新たな取組にも挑みます。

関係者の皆様には何かと御協力を賜ることもあろうかと思しますので、よろしくお願い申し上げます。また、公開講座など、どなたも参加可能なイベントも開催されますので、その折は是非ご来場ください。

創立30周年の様子



記念式典



記念公開講座



記念式典会場前ブース



祝賀会

こんな環境の中でも、学生たちは、寮生活の中で厳しい冬を乗り切り、一年生は全員、無事卒業することができました。林大生には逞しさを感じます。学生諸君は、卒業後も様々な困難に遭遇することもあるかと思いますが、その逞しさで力強く乗り切って未来を切り開いていく

今年の冬は、全国的に寒い日が続きました。この木曽の地も、例年にも増して寒い日が続き、最低気温がマイナス10度を下回ることもたびたびありました。本校もこの寒さの影響からか、暖房器具の故障、水道管の凍結及び破裂、ボイラーの故障など、例年になく施設・設備の不具合が頻発しました。

編集後記